



FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB

藤枝南ロータリークラブ会報

例 会：毎週金曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL：054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040
 E-mail: club1991@fujieda-rotary.org

会長：伊藤 彰彦 副会長：内山 淑夫 幹事：渡邊 芳隆 副幹事：竹田 敏和

第1136回

<http://www.fujieda-rotary.org>

- ソング 四つのテスト・風
- ソングリーダー 平原 望君

■ 会長報告

伊藤 彰彦君

みなさん、こんにちは。先週は創立記念夜間例会に多くの皆さんに参加していただき盛大にできましたことお礼申し上げます。



また、当日突然の指名により歴代会長さんたちにもお話をさせていただきありがとうございました。皆さんの会長当時のことが思い出され、楽しく聞かせていただきました。

当日の進行や会の盛り上げに多大なご苦勞を親睦の皆さんにはお願いしましたが、おかげで参加していただいたメンバーから、帰り際に「楽しかった」とか「有意義だった」というお褒めの言葉を頂くことができました。本当にご苦勞様でした。

大抽選会も盛り上がり、見事賞品をゲットした皆さんおめでとうございました。本日は是非ニコニコへ募金をお願いいたします。

あと、最終夜間例会が残っていますので、この勢いで是非楽しい夜間例会にさせていただきたいと思います。

さて、話は変わりますが、先週お話しさせていただきました静岡RCの80周年記念事業について、理事の皆さんには是非参加をご検討くださいとお願いしたところですが、私ははっきり記念式典や懇親会にも参加できるものと思っていたところ、実は300名の参加を希望しているのは、あくまでも記念講演会のみで、記念式典すら各クラブの会長・幹事のみということでした。ですから記念

講演に興味のある方は参加していただきますよう、後ほど参加者名簿を回しますので、理事ではなくどなたでも聴講希望の方はお名前を書いていただければと思います。

また、先々週の例会で皆さんにご協力をお願いしましたネパールへの義援金につきまして、当日皆さんのご寄付が28,200円となり、これを昨日5/28に国際ロータリー2620地区ガバナー事務所へ振り込ませていただきました。

ガバナー事務局では米山記念奨学会を通してネパールの現地米山学友会へ送金してくれるということでした。皆さんのご協力に感謝し、無事に送金が終了いたしましたことご報告させていただきます。

簡単ですが、本日は以上をもって会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

■ 出席報告

富澤 賢一君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
37/45 88.09%	41/45 91.11%

(1)欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）

○漆畑君 ○望月君 池谷君 江崎君 川口君 中村君 藪崎君 桑原君

(2)メイクアップ者

富澤 静雄君（榛南）

■ ビジター

青島 彰君（藤枝）

■ 次年度会長幹事方針説明

「私の略歴」

内山 淑夫君



私は清水市の横浜町という町で昭和30年3月9日に生まれました。今は上清水町となっていますが私は横浜町の方が好きです。海まで自転車で5分くらいの処です。海とは清水港のことです。あの頃の遊びと言えどとにかく港に行き釣りをしたり貯木場に侵入してシラスウナギを手づかみにしたり、すべてと言っていいほど港近辺でした。

当時の清水港には外人の船員さんが闊歩していたり、ウェルカムと書いた看板のある雑貨屋で米軍払い下げのキャップやジーンズやライターを売っていたりと横須賀の一部を切り取ったような町でした。

私の家は父親が内山材木店、母親がハマ美容室を経営している根っからの小アキンドでした。父親は天竜横山の出身で天竜林業という学校を卒業して清水に住むようになったようです。工場は押切と言いましてバイパスの近くで巴川の脇にありました。昭和49年の七夕豪雨では材木が大量に流失し大損害だったと聞いています。私の父親は見栄っ張りです。新しもの好きでした。父親は私がものごころついたときからイギリス製の自動車に乗り、毎晩清水銀座で飲み明かしていました。ある朝道路の向こうの木製のゴミ箱に酔っ払いがしなだれかかっているのを見て、嫌悪したのですが、これが父親だったことがわかりさすがにあきれかえったものです。また、父親はゴルフが趣味でいろいろな大会に出ており、家の応接間には恐ろしい数のトロフィーが並んでいました。清水銀座の商店街の人たちと清水クラブとかいう親睦団体を作って毎月持ち回りで各人の自宅に数十人が寄せ集まりどんちゃん騒ぎをします。ですからお酒が好きで外車に乗ってゴルフが趣味の人は早晩倒産することになるようです。

住み込みの見習いさんというのは今は死語になりましたが、母親の美容院には住み込みの見習いさんが2人おりました。ここで実務をやったり生活をしながら柚木の美容学校に通い資格を取るのでした。私がきれいなお姉さんを好きになった

のもこの環境が原因です。父親の材木商にも見習いさんが住み込みで働いておりましたので、やたら大人数でした。当然美容院をやっている母親が掃除や洗濯や食事の支度は出来ませんので通いのお手伝いさんがおりました。その上父親の実兄がギャンブル好きで自分の材木店をつぶしてしまいましたので毎晩我が家で食事をする様になっていました。晩ご飯は大変な賑やかさでした。

当時の清水は清水港木材組合も全盛期で会員数も今の数倍いたようです。景気が良くて清水銀座や駅前銀座はそれはもう華やかなものでした。金嬉老事件の発端となったクラブみんくすをご存じでしょうか。暗くなると空に向けて何本ものサーチライトを放っており、まことに派手なものでした。みんくすは父親の処に盆暮れには贈り物をくれるのですがカラーパンツの詰め合わせという大胆と言いますか、無能と言いますか、そんな経営感覚でやっても大流行だったのですからいかに景気が良かったか推して知るべし、です。

先日久しぶりに駅前銀座から清水銀座を歩きましたが週末でも人が少なく、こんなになっちゃうのかと一抹の寂しさも覚えました。

私は地元の浜田小学校を卒業し家庭教師の甲斐があつて見事に東海大学第一中学校に入学しました。私には1つ上の兄がおらずに東海一中に入学しておりました。いとこたちもほとんど東海一中でしたので当然のようにここに決めました。そのほかにも大きな理由がありました。橘からもずいぶんと誘われたのですがあそこに入学すると坊主頭にしなくてはなりません。私立に行くのに坊主頭では公立と同じです。とにかく坊主頭がいやだったのでした。

ところが入学してみると、私立の学校というのは今はどうか知りませんが当時は少なくともまともに公立に行けないものの軍団でした。私は小学校の時から肥満児でしたので先生の指導もありサッカーをしておりました。ところが東海一中に入ってみたらグラウンドにゴールがありません。そりゃそうです、サッカー部がないんですから。庵原から来ている山猿みたいな友人と話をしサッカー部を作ろうということになり、何か私が校長室に直談判に行くことになりました。校長先生は大変お優しい方ですぐに対応してくれゴールを発注したりユニフォームを決めたり担当の先生をつけてくれたりあつという間にクラブが誕生したのです。ところがあろうことかあるまいことか、最大の功労者の私が3年生になって

も補欠のままで1年生がレギュラーでした。考えてみれば私は食べることに以外に興味があるのは異性くらいのもので、とにかく肥満児のままで、あだ名がポーキーだったのです。一番嫌いなのは走ることでした。そうです、不動のディフェンダーだったのです。

私の場合、高校は男のロマンで、あえてエスカレーターでの東海一高には行かずに清水南高校に入学しました。なぜ南校かと言いますと静高と清水東校は200名無理だったからです。全くとりえのない田舎の高校で校長の入学式挨拶が昨年は何人が大学に入学したという自慢話を聞いて、ひっくり返ってしまいました。駅弁大学の人数なんてどうでもいい、東大に入学したとでも言うならばつですが。本当にろくでもない学校でした。

ここを3年で卒業して東京は吉祥寺にある成蹊大学文学部日本文学科に18歳で入学しました。なぜこの大学にしたかと言いますと、他に受験した7校すべてに落ちてここだけしか行くところがなかったのです。ここでは今の安倍総理と同級生でした。当時は見たことも会ったことも無かったですが。ここで運命のヨットと出会いクラブ活動にのめり込みすぎて、卒業までに6年を費やす羽目になりました。

就職は建通新聞社という建設関係の業界紙にもぐりこみまして1年目徳島支局2年目東京開設準備室に配属され以降退職するまで東京支局勤務でした。東京支局は銀座8丁目にありすばらしい飲食環境でしたので毎晩新橋あたりで飲み歩いておりました。

そのころ私の両親は藤枝市五十海に住んでおりました。何故かと言いますと父親の放漫経営から負債10数億というとてつもない数字で会社が倒産して地元清水にいられなくなったからです。女は強いもので母親は結婚式場の着付けの仕事をしており家計を支えておりました。母親は60近くになってから運転免許や宅建免許をとりました。やがて父親も知人の高利貸しの会社の役員となり数年後には独立して高利貸しを始めました。兄は京都に就職していることから私が将来は両親と同居しなくてはならず建通新聞社をやめて藤枝市にて不動産業を開業しました。昭和60年9月のことでした。無謀にも実務経験無しでした。しかも事務所が自宅のサンルームという夏灼熱、冬厳寒の環境でした。しかも屋号が『するがや』。よくお好み焼き屋と間違われたものです。

私が運が良かったなあと思うのは、地盤沈下の清水から右肩上がりの藤枝にいつの間にか移動できたことです。人間の一生なんて努力ではなく運だと言えます。これからも運を頼りに生きて行くことを宣言したいと思います。みなさまも努力しようとかがんばろうではなく、ただひたすら運が良くなるようにお祈りすることです。ご清聴ありがとうございます。

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
6/5(金) 第1137回	会員卓話 ^{②④}	私の職業 お役立ち情報
6/12(金) 第1138回	会員卓話 ^{⑥⑦}	
6/19(金) 第1139回	最終夜間例会	
6/26(金) 第1140回	早朝例会	

(担当/飯田)